

## 進捗状況の概要（2ページ以内）

## ①大学改革の加速

2018年度はAP事業の「IGSプログラム」と、昨年採択となったJSTのGSC（グローバルサイエンスキャンパス事業「GIYSEプログラム」、2017年から開催している西東京三大学連携事業「3大学グローバルスクール」の3種類の高大連携プログラムを開催し、高校生の多様なニーズに応えることが可能となった。この3プログラムを実施することにより、受講生の所属高校を中心に高校関係者とのコミュニケーションの機会も格段に増え、また内容も充実したものになっている。2021年度の大学入試改革を目前に控え、特別入試等で高校生が課外活動の資料として活用できるよう準備を進めている。

また、「IGSプログラム」の受講生が本学に入学し、スクーリングのファシリテーターなどプログラムの運営に関わってくれるようになった。AP事業で学習することができた「科学全般の素養」、「論理的思考力、判断力、表現力」、「グローバルな視野、外国語力」を学生が自らの言葉で高校生に語るができるという理想的な状況が実現できた。

## ②事業の実施体制

2018年度に新たに設立された「グローバル教育院」が事業の運用主体となった。ここでは「グローバル教養教育グループ」、「海外リエゾングループ」、「アドミッション・専門基礎教育グループ」が連携がより強くなり、IGSプログラムのコンテンツの充実、運営体制の安定化に寄与した。

またIGSプログラム後期のキャリア教育科目が正課科目に昇格することが確定した。

大学入試改革への対応として全学組織の「入学者選抜制度検討委員会」を設け、2020年度実施の新制度入試にむけて情報収集を開始した。すでに農工大学で実施していたSAIL入試は工学部において2学科から3学科に実施学科が拡大し、さらに他学科で実施する検討を行っている。

## ③事業の実実施計画・継続性

事業最終年度の2019年度では、高大連携教室「IGSプログラム」を学内の人員体制で実施できるよう業務内容を整理し、予算面でも継続可能な状況に近づいている。

2020年度以降の継続に関して2019年度中に実施計画をまとめ、学内で承認を得る準備を始めたい。

## ④事業成果の普及

2018年5月26日「全国大学入学者選抜研究連絡協議会」（大学入試センター主催）会場（電気通信大学：調布市）において、採択校8大学によるポスターセッションを開催し、そこで事業の進捗、得られた成果を報告した。協議会には全国の国公立大学をはじめ、高等学校、都道府県教育委員会、その他多数の教育関係者等約950名が参加しており、活動の認知は得られたと考える。またブースにも10数名の訪問があった。

また2019年3月に採択校8大学の取り組み状況を事業報告冊子にして、全国大学約1,200校、高等学校約5,000校に配布し、同時にポータルサイトで公開した。

## ⑤選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

高大連携教室「IGSプログラム」は毎回、募集定員以上の申込者が確保できており、その半数以上が「高校教員からのすすめ」でプログラムを認知し応募している。これは高校教員に農工大の教育委、研究の認知が浸透し、高大接続の取り組みが支持されている現れと考えられる。そこでは高校生の科学への興味、関心を高め、将来の進路を選択する際に、このようなプログラムへの参加が有効であることが理解されている証左と思われる。

2019年度入試において、IGSプログラム受講生から28名が受験、15名が合格した。これは全受験者2,547人の1.1%、合格者952名の1.6%にあたる。この状況は2017年の入試から継続してお

（テーマ：Ⅲ（高大接続）、大学等名：東京農工大学）

り、入学者選抜においても確かな実績をあげている。

I G Sプログラムは第1期生が2019年に4年生に進学している。統計的な検証ができるほどの対象数にはなっていないが、個別の学生の活動は非常に活発で、様々な場面で学生の課外活動の中心となっている。留学生のバディ活動の学生組織では代表を務め、自主的な活動を中心となって進めている。またI G Sプログラムのグループワークのファシリテーターをプログラム出身者が担当し、プログラムのコンセプトを高校生に直接伝える役割を果たしている。

これまで教科学力の評価が中心であった一般入試から、多面的評価を行う特別入試を拡大する際に、高校生の様々な活動を評価し選考に用いることで入学する学生の、入学後に期待されるパフォーマンスを想定するためのエビデンスを蓄積することに役立っている。

#### ⑥テーマ別幹事校の取組

※「④事業成果の普及」の再掲

2018年5月26日「全国大学入学者選抜研究連絡協議会」(大学入試センター主催)会場(電気通信大学:調布市)において、採択校8大学によるポスターセッションを開催し、そこで事業の進捗、得られた成果を報告した。協議会には全国の国公立大学をはじめ、高等学校、都道府県教育委員会、その他多数の教育関係者等約950名が参加しており、活動の認知は得られたと考える。またブースにも10数名の訪問があった。

また2019年3月に採択校8大学の取り組み状況を事業報告冊子にして、全国大学約1,200校、高等学校約5,000校に配布し、同時にポータルサイトで公開した。